

国環研所属大学院生による研究生生活紹介



国立研究開発法人 国立環境研究所

国立環境研究所 環境・リスク健康領域 生態毒性研究室
東京大学大学院 新領域創成科学研究科 自然環境学専攻 修士2年

加藤晃汰

紹介内容（自分が入学前に気にしていた点）

■ 研究所と大学院の行き来：連携大学院の場合の例

■ 研究室の雰囲気

- ・ 学生目線の国環研の印象
- ・ 研究の進め方



研究所と大学院の行き来：連携大学院の場合の一例

国環研

- ・ 研究机 (PC貸出)
- ・ 実験
- ・ 研究室ゼミ
- ・ 研究相談

基本は研究所で活動

オンライン参加

大学院

- ・ 授業
- ・ 専攻ゼミ

事務手続きに行く程度...



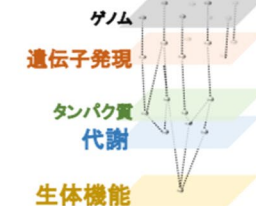
zoom

現在、大学行事はほとんどオンライン

系統間で特定物質について感受性の異なる報告あり→国際間でデータの相互受理してるけど大丈夫'

■感受性はどう決まる？

感受性決定要因



①着目遺伝子を抽出

③機能解析

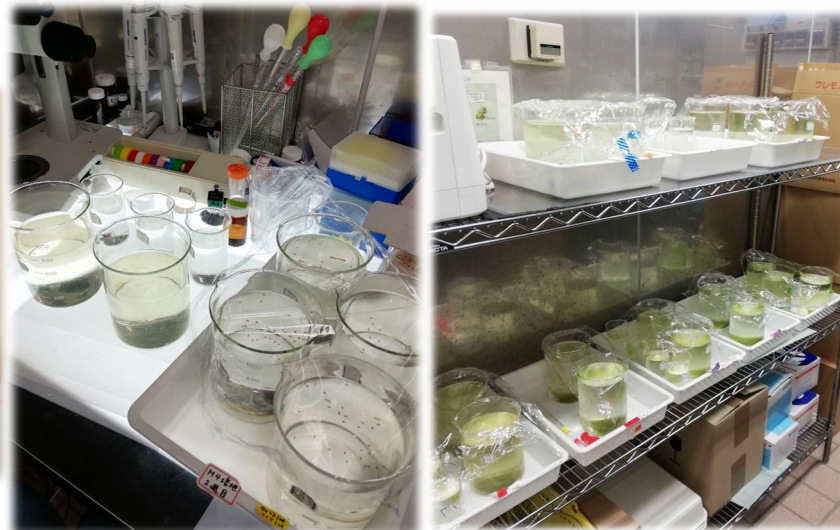
②化学物質選定+感受性試験

目的: 遺伝子発現から化学物質の感受性予測を検討

専攻ゼミの切り抜き



研究室(居室)の様子



実験室の様子(朝のミジンコ飼育作業)

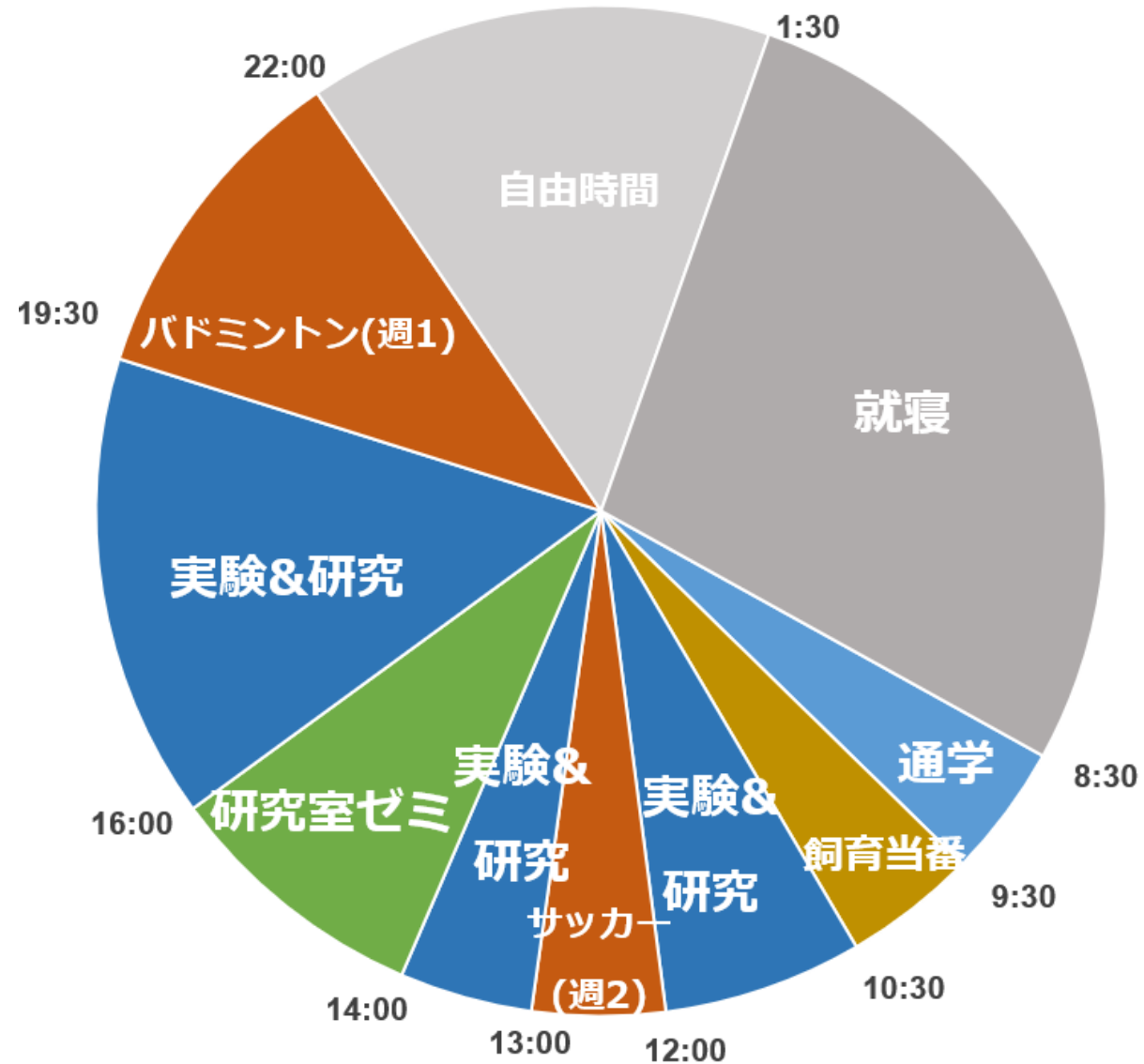
研究室の雰囲気・研究の進め方

■学生から見た国環研の主な印象

- ・ 大人が多い (入学前一番気にしてた点)
- ・ 実験設備が豊富
- ・ RA(リサーチアシスタント)で若干の経済支援
- ・ 基本的に自由に研究できる

■研究の進め方

- ・ 週1回の研究室ゼミ
- ・ 研究員の方と相談
- ・ 研究室外の方とも相談
→ 実験方法や研究方針



1日のスケジュール(参考までに)